

## オビカレハ

春にサクラやヤナギなど広葉樹の葉を集団で食べる毛虫（幼虫）。最大長約60mm。小さなときは体は黄色で黒い縦縞があり、頭部は黒。白い糸で巣を作り、その中や表面に数十頭～百頭程度が群居する。成長すると体の横側や頭部が青っぽくなる。巣から離れ単独で葉を食べる。幼虫はウメケムシまたはテンマクケムシと呼ばれることがある。

庭木などでまれに多発する。多発しなくても集団が大きいと部分的に食害が目立つ。



1. 中齢幼虫。1994/6/7.

美唄市，庭のエゾヤマザクラ。



2. 幼虫の巣。1994/6/7。1の巣。



3. 終齢幼虫，体長35mm。1994/6/21.

1の集団を飼育。



4. 雌成虫，体長16mm。1の集団を飼育。

【学名】 *Malacosoma neustyia testacea*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , カレハガ科 (Lasiocampidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州。

### 【生態】

宿主：アンズ，ウメ，カイドウ，サクラ，スモモ，バラなどのバラ科樹木，ヤナギ類，ミズナラ，クリなど各種の広葉樹。

年1回発生。卵で越冬。春に孵化した幼虫は枝などの上に糸を張りテントのような巣を作る。このためテンマクケムシという別名がある。幼虫は6月，樹上で黄白色の繭を作り蛹になる。蛹は夏に蛾（成虫）になる。雌成虫は細枝に卵を並べて指輪のよう

に産み付ける。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
卵	+++	++	+..		..	+++	+++	+++	+++
幼虫			..■■■	■■■■	..				
蛹				..◇	◇◇..				
成虫					..○○	○..			

### 【被害と防除】

庭木などでまれに多発し、木を丸坊主にすることがある。木を枯らした記録はない。

幼虫を巣ごと除去して駆除する。触ると体毛が皮膚に刺さることがあるのでゴム手袋をすること。

農薬による駆除が必要とされる場合はオビカレハまたはウメケムシ用の農薬を用いる、適用できる農薬としては、エトフェンブ  
ロックス乳剤、DEP乳剤などがある。

### 【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー  
写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

オビカレハ karehaga/obikare/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/2.  
1yochu.jpg, 1yochusu.jpg, 1yochu2.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～4」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1994.